神奈川県演劇連盟機関誌

ドラマ神奈川

第13号

1998年1月31日発行【神奈川県演劇連盟】

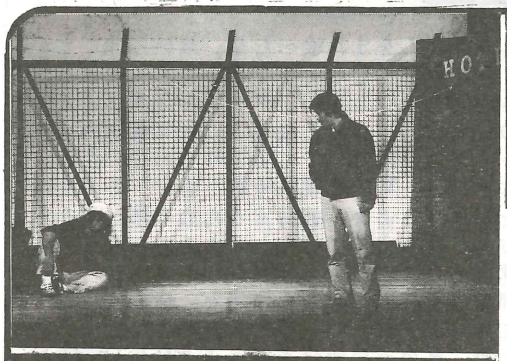
●横浜市中区福富町西通り52☎045-261-4866

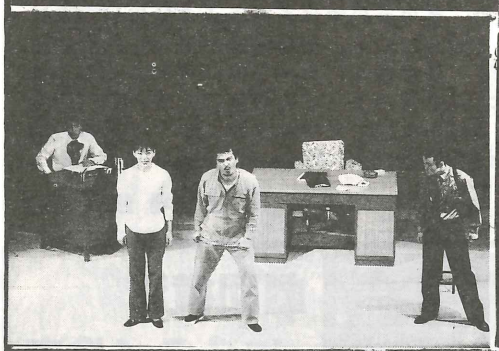
グラフKENLEN

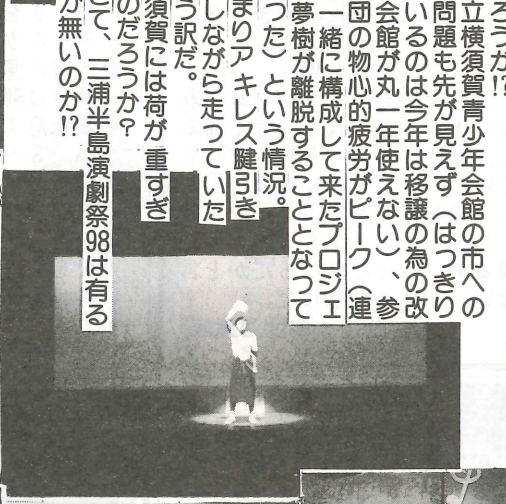
三浦半島はこの秋燃えたか!?

三浦半島演劇祭'97 シンポジウム

県立青少年会館として最後の大イベント「三浦半島演劇祭'97」が12月11日のエンディング・パーティーを最後に終了した。参加団体の悲喜交交を実行委員長の祭山寸花さんより報告して頂きます。







三年目となるこのお祭り、シンポジウムあり、ワークショップあり、高校演劇発表会あり、各劇団の公演ありと、今年も華々しく開催された。全プログラムでの延べ動員数も昨年を上回ることは確実で、先ず目出たしメデタシと酒酌み交す…と行きたいところだが何んとも不安が残っているのは私だけだろうか!?

県立横須賀青少年会館の市への移譲問題も先が見えず（はっきりしているのは今年は移譲の為の改修で会館が丸一年使えない）、参加劇団の物心的疲労がピーク（連盟を一緒に構成して来たプロジェクト夢樹が離脱することとなってしまった）という情況。

「つまりアキレス腱引き攣らしながら走っていたという訳だ。

横須賀には荷が重すぎたのだろうか？

さて、三浦半島演劇祭98は有るのが無いのか!?

恐らく、リハビリしながらその可能性を模索することになるのだろう。この三年間に培った、高校生や関係先生方そして会館職員を始めとする行政の方々との信頼を礎にして。

速報

横浜アマチュア演劇連盟合同公演

『カストリ横丁純情族』

■3月14日（土）、15日（日）
■横浜市教育文化ホール（関内駅前）
■作／高津一郎　演出／濱田重行

戦後間もない横浜・野毛の飲み屋を舞台に、終戦により様々な支配から解放された人々が集まり、対立・和合しながらバーレスクの一座の結成を…。

戦後の混乱の中でも、人情味を忘れず、力強く生きようとする人達の人間模様を見事に描いています。

地元の出来事にこだわった脚本を書き続けている、「劇団麦の会」代表のオリジナル作品を横浜アマ演連加盟5劇団が総力を結集してお贈りします。乞うご期待！

公演スケジュール

劇団河童座
2/27(金)　28(土) 横須賀青少年会館3F
『奇跡の人』W・ギブスン／作

かわさき演劇まつり
（京浜協同劇団・川崎演劇塾合同公演）
3/28(土)14:00/19:00 29(日)10:30/14:00
川崎幸文化センター
『空を飛んだ鶏と銀色の松ボックリ』
可能あらた／劇詞

劇★派

「わたしの薔薇を撃ち抜いて」

10／17(金)～19(日)
相鉄本多劇場

よく劇★派の芝居は「難しい」とか「分からない」と聞かされる。確かに、テーマが伝わりにくいと思った。場面があちこちに飛んでしまうせいだろうか。話にゆっくりひたる余裕がなかった。

ただ、映像というか、目に映るイメージはとても綺麗なものが多い。ごくシンプルな舞台ではあるが、そのシンプルさがかえってよかった。一枚の大きな布だけで、人物をより美しく見せたり、演出のこだわりだろうか、そういうところはとても良いと思う。

役者について言えば、女優役の方、さすがプロの歌手というだけあって、細い体から発される、よく通る強い声が印象的だ。でも、演技にちょっと粗さが目立ったようだ。一番光っていたのは、鬼の父親役だった。特に後半部は、ややだれ気味な鬼の家族のシーンに彼が出てくると、場がひきしまり、テンポもよくなった。

全体的に、印像には残るが、どんな話だったかと言われると、よく分からない、といった感じだ。

（担当　劇団河童座）

劇団蒼い群

「アカイツキ」

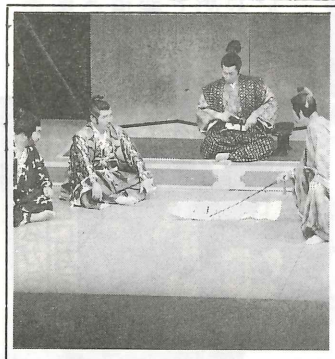
10／18(土)・19(日)
県立横須賀青少年会館

吐き出したうどんをまた喰べたり、頭から汁ごとかけられたり、胸の悪くなるような芝居をよくもまあ取り上げたものだと感心したが、ベテラン３人による舞台は、私の知る別役の世界とは異る心象風景をみせた。

パンフレットに「孤独の中でのとりとめない生活。でも最後には自分たちの存在を確認し合い、この生活の空しさを知り、ここから抜け出るための第一歩をそれぞれの方向へ踏み出して行く」とあるあたりが、この上演の意図したところだろう。

舞台は部屋の中だが、もっと雑然と、埃にまみれている状態であった方が、狙いを助けたのではないだろうか。３人の、己の血の中にある太古の記憶は、人は森の中で獣と闘っている。その意識が甦った時、太鼓の音がきこえ　森の向うに大きな赤い月がみえる。紗幕を使って状況を浮び上らせた装置は見事だが、演技の質をもっとクールにして内面を押し出すことで、赤い月はより深く観客の心に伝わったのではないだろうか。

（担当　横浜小劇場 飯田克衛）



劇団こゆるぎ座

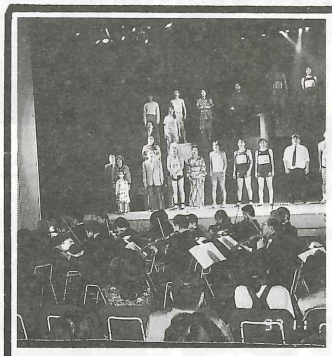
「小田原北條記とくひめ」

11／1(土)・2(日)
小田原市民会館

小田原北條を芝居（戯曲）にした。ましてや、それを舞台にのせる（上演）時がきた。劇団こゆるぎ座の代表、関口氏の口上である。地域劇団の総決算として、小田原の代名詞とも云うべき北條五代の崩壊を、二代氏綱の弟幻奄と家康の息女督姫を両軸に展開していく。今回の公演は「知的まちおこし」との事。座員たちの情熱と信念はもちろんのこと、連続上演されている小田原物オリジナルシリーズを支え続ける、観客の多さにまず驚かされた。横浜から訪問した私にとって、駅から歩いて十数分の市民会館はつらいのに。

おやじボーイの例に違わず、歴史小説が愛読書の私には興味ある内容でしたが、歴史物の難しさは主題、切り口、料理方等いろいろ。そんな中で、美しい督姫にもっとキャラクター性をもたせ、スポットライトを集めてみたらどうだったのでしょうか。テレビドラマの見すぎかもしれないが、老若男女歴史への誘いを考えると分かりやすいが一番。

（担当　かに座　原田）



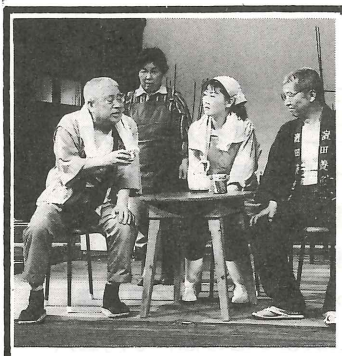
劇団横濱にゅうくりあ

「保土ヶ谷エクスプレス」

11／2(日)・3(月)
保土ヶ谷公会堂

私は保土ヶ谷公会堂で観劇するのが始めてであった。緞帳に保土ヶ谷宿が描かれていた事にまず感動を覚えました。何故か保土ヶ谷区民の想いが伝わって来た様な気がしました。舞台も区民の一体感を演劇、音楽、映像を通じて「区制の70年の歩みをマラソンを走り続ける」その一言で言いきった、まとめきった泉谷渉さんの脚本は素晴らしい構成力を持っていたと感激しました。〝君は君自身に向って走り続ける、それを失くしてしまったら死ぬしかない〟この劇中のセリフに私は感動をしました。この一言で区民、区政がひとつになりあきらめずにより良くなる為に追い続けなければいけないのだと感じました。演技についてはややオーバーアクション気味かなと感じましたが構成力の強さが浮足だたずにすむようにちゃんと引っぱっていけたと思った。泉谷さんの大きな狙いはこういう芝居にあるのだと感じたお芝居でした。劇団員の皆さん本当に良いお芝居を見せて頂いてありがとう御座居ました。

（担当　劇団蒼い群　村田次郎）



京浜協同劇団

「金魚修羅記」

11／7(金)・8(土)
幸市民館
11／29(土)・30(日)
宮前市民館
12／9(火)
県立青少年センター

川崎の金魚養魚場にも日本経済高度成長の波が押し寄せ用地買収工作が行われる。跡地には戦争で使う農薬製造工場が建てられるという噂が…。純粋に金魚を守り続けようとする次郎兵衛を中心に、その回りで織りなされる人間模様を描き、社会問題についての取り組み方を考えさせられる作品でした。

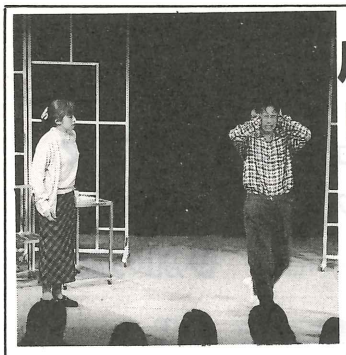
地元・地域そして社会問題にこだわる劇団らしい作品です。

ただ、軽いのりの解りやすい芝居が好きな私としては、テーマが重い分、もう少し軽い感じの日常生活らしさを織り込んだほうが良かったのではないかと思いました。

舞台装置は花道を使い遠景もしっかりと作ってあり凝っていると思いました。しかし、何故か理由は良く解りませんが、奥行きがいまいち感じられなかったように思います。

客に媚びる事なく、客に社会に訴え続ける芝居づくり姿勢にはいつも敬服しています。

（担当　劇団蒼生樹 平丸寿博）



川崎演劇塾

「アルジャーノンに花束を」

11／14(金)～16(日)
相鉄本多劇場

「アルジャーノンに花束を」原作・ダニエル・キイス。私はこの作品を、映画（ビデオレンタル）で観たことがあった。

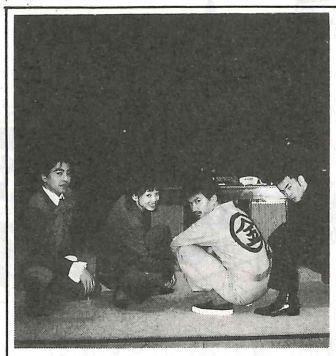
科学の力で天才となるＩＱ68の青年の悲劇だ。この難しいストーリーを見事に舞台にのせた劇団があった。「劇団川崎演劇塾」である。

役者一人ひとりが、その役の人生を背負い忠実に演技をしていた。決して傲ることなく私たちにメッセージを送ってきた。超満員の客席は、それを見逃がすことなく最後まで、食いいるように観た。

聞けば、演出は13年前に演劇塾の門をたたいた「女性」。「ベテラン役者」とのこと。さすがは、役者のそれぞれの魅力の引き出し方の分かっている方なんだと感じた次第である。

人はいつか死ぬ。誰もが与えられた運命。その日まで、いかに自分と向き合い、逃げることなく自分を愛し、「生きる」ことに感謝する心を尊いことと思うこと。また精一杯生きること。私はこのことを強く感じた。

（担当　こゆるぎ座 金子麻美）



プロジェクト夢樹

「売春捜査官」

11／21(金)～23(日)
県立横須賀青少年会館

25年も前のあの「熱海殺人事件」が何故、今、斬新なのか。今年改作されたせいか、つかのテーマである「差別」に現代社会における「裁き」を加え、辛辣に観客に問いかけてくる。小劇場がすたれ、静かな演劇が浸透する中、観客にキスをしようとして訴えられたのなんのかんのとマスコミに取り上げられていたが、今度はそんな一体化を求めない観客にビンタをくれるしたたかさ。つかの思いが伝わってくる。

そして、何故夢樹がそれを取り上げたか。演出の吉本氏の軌跡をみればそれは明らかだ。横須賀の地で頑強に希求する表現。役者のひたむきさにも好感がもてる。後半のシーンで木村伝兵衛が花束をガラスの破片のように壊していく。芝居のあるシーンが観客の想像力を刺激し、自分を取り巻くありとあらゆる世界が走馬燈のように駆けめぐり芝居の中にとけ込み、心を揺らす。久しぶりに小劇場空間を堪能した。次回公演が楽しみである。

（担当　横浜にゅうくりあ）

劇団葡萄座

「正しい殺し方教えます」

11／22(土)・23(日)
テアトル・フォンテ

【犯罪小説】には流行があって、世評から取り残された老作家達が、本物の殺人を行なうことで再び活路を見い出そうとするが、【現実】を小説化する若手作家にしっぺ返しを受けてしまう。この図式を【演劇】に置きかえてみるとこの戯曲は凄みを増す。何故なら、舞台上でくり広げられる茶番が、プチブルである我々の存在を撤底的に描き出す。つまり、劇場は【何も起こらない場所】という確認の上で成り立っていると――。それらも又、古い図式だとばかりに、戯曲は最後に【事故】による結末に至る。未来を暗示するかの様に。

葡萄座のこの日の舞台も、残念ながら事件とはならなかった。この日、この劇場で起きた事件といえば、セリフのトチリが多かったことと活舌が悪くて意味不明だったこと。そして仕掛物に失敗したことだった。大仰な言い回し、大げさな身振りを観ていて、「ああ、テアトルフォンテはやはり、ホールだったんだなあ」と、しみじみ思ってしまった。

（担当　劇★派 祭山寸花）

「横浜小劇場」“ノイエンシュタット国際アマチュア演劇フェスティバル”参加の記

1997. 9月9日～14日

（社）横浜演劇研究所　飯田 克衛

いきさつ

私どもの故加藤衛前所長と親しかった、ドイツ、バーデン・ビュルテンベルク州アマチュア演劇連盟会長ヘルムート・クーン氏から当所宛に、1997年9月に州内のノイエンシュタットで行われる国際アマチュア演劇フェスティバルに参加の要請があったのは、昨1996年11月のことでした。

クーン氏には、過去3回の「神奈川国際アマチュア演劇フェスティバル」開催の都度、神奈川県と姉妹関係にある同州からアマチュア劇団派遣の労をとっていただいています。第1回（1985）にはカールスルーエの「劇団Ä＆Ö」、第2回（1989）にはドンツドルフの「劇団アクツィオーン・テアーター」とリンゲンの「劇団シュピール・ビューネ」、第3回（1992）にはマンハイムの「マンハイム・マイム・シアター」が参加してくれました。ご自身も3回とも参加されています。更に、1990年に神奈川県が主催した真鶴半島でのサーフ'90『神奈川国際芸術祭』に、国際野外演劇祭」を行いたいと県から当所に依頼があり、フィンランド、スロヴァキア、ドイツ、カナダの4カ国から1劇団づつを招いて、荒井城址公園で開催しました。このときドイツからは、やはりクーン氏の推薦で「劇団ノイエンシュタット野外劇場」が参加し、同劇団との交流を深めたのでした。

今回はそのノイエンシュタットで演劇祭が行われるというのですから、参加しないわけには行かないと、希望者を募りました。「横浜小劇場」は1973年モナコの「第5回世界アマチュア演劇フェスティバル」を皮切りに単独、あるいは蒼生樹（1988、1995）、葡萄座（1994）、かに座（1995）の劇団員の方々と協同で、合わせて12回の国際演劇フェスティバルに参加していますが、その都度手順として、先ず開催期間をふくめて2週間仕事を休むことのできる人が募られ、そのメンバーとフェスティバルの条件（上演時間、人数等）に合った演目を選び、稽古にはいることになります。今回も同じ手順を踏んだ結果、年度替わりの時期ということもあって、「しんしゃく源氏物語」により参加することに決まったのは、5月に入ってからでした。

ノイエンシュタットというところ

バーデン・ビュルテンベルク州の州都シュツットガルトの北約50kmにある人口約8800人の小さな町で、

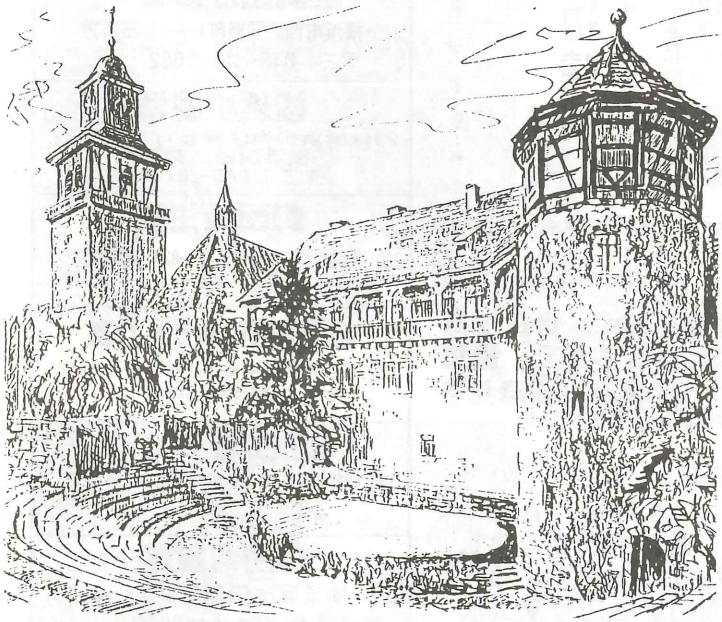
ワイン醸造のための葡萄栽培、或いは、近くにある車のアウデイの工場や、油圧精密機械工場で働く人が多いようです。上の図は、町の中心部にあるルネッサンス様式の古い城で、城門をメインストリートが通り、その右手の城の下にある野外劇場（次頁の絵）がこの町の名所となっています。

この野外劇場は、1951年（昭和26）にコーラスフェスティバルを行うために作られました。1958年にはコーラスグループとともに、ここを拠点にした劇団「ノイエンシュタット野外劇場」が創設され、今日まで活動を続けています。今回のフェスティバルは州のアマチュア演劇連盟、町、そしてこの劇団三者

の主催で開催されましたが、準備や運営はもっぱらこの劇団の皆さんの手によって行われていました。

劇団「ノイエンシュタット野外劇場」

劇団創立当初は民話劇風のものを上演していましたが、1969年（昭和44）にシラーの「ウイルヘルム・テル」を上演してからは、シェイクスピア、シラー、ツックマイヤー（「ケペニックの大尉さん」「ヒゲの生えた制服」等が邦訳されている）等の劇作家のものを上演し、今年は劇団創立40周年記念公演として、ゴーゴリの「検察官」を上演したそうで、この芝居の一部を、会期中に見学に行った岩塩抗の中



で上演してみせてくれました。毎年夏の７週間の週末に上演されているこの野外劇を、近郷近在から２万人以上の人が集まって楽しんでいるとのことです。

夏以外は、子供や青少年のための芝居を、近くにある”羊小屋博物館”の小さなホールで上演していますが、今回のフェスティバルの開会式はそこでおこなわれました。

フェスティバルのこと

９月９日の開会式に続いて、10日からいよいよ各国の上演です。参加したのは、カナダ、イタリア、スロバキア、オーストリア、日本、そしてドイツの６カ国でしたが、それぞれお国柄の出た面白い作品が並びました。

10日のオーストリアはウイーン派の作家の作品のいくつかを、オムニバスに脚色したものでしたが、若い人のグループらしく元気に話をつないでみせました。イタリアは、コメディア・デラルテの流れを受けた演技により、悪魔の誘惑と戦う人形の道化の話でした。

11日は先ず私たちの上演です。学校の体育館のような会場で、照明設備も余りないということは、送られてきた図面から予想していましたので、８月に日本で見ていただいたような簡素な舞台が有効でした。観客の反応はよく、ところどころでクスクスと笑いも出て思った以上に楽しんでくれていることが、観客席にいてはっきりと感じられました。翌日町で会った人から、「昨日の芝居を楽しく見た」、或いは、「初めて聞く日本語に魅せられた」などの感想を聞かされ、この土地の人も、芝居を観ることに慣れているのだといううことを痛感しました。

私たちのあとに、同じ会場の客席の後ろの部分の平土間に簡単な装置を飾って上演したスロヴァキアの芝居は、エネルギッシュな東欧独特の小劇場風スタイルで上演され、観客に大きなインパクトを与えたようです。

12日はカナダの劇団で、フランス語により死・生・愛の問題を、三つの家族の話を同時に進行させて感動的な舞台にしていました。

13日は、ドイツのマンハイムから来たマイムの劇団で、衣服への人間の思いをさまざまに表現しながら面白く観せました。

アマチュア演劇による国際交流

今回のフェスティバルでの、地元の皆さんのホスピタリティーには頭の下がる思いでした。小さな町の野外劇場を中心とした芝居好きの人たちとの交流は、アマチュア演劇の国際交流とはごく一般の市民同士の裸のつきあいだという思いを更に強くしました。第４回目の「神奈川国際アマチュア演劇フェスティバル」を是非とも開催したいと願っております。

理事会の報告

劇団かに座　田辺晴通

97年12月22日開催した理事会の概要を次のとおり報告する。

Ⅰ　アートLIVE97の報告と同98について、催し自体については一定の評価はあるものの160万の赤字が生じたこと。これは横浜市文化振興財団招聘の〝新宿梁山泊〟の観客及び通し券の売上げが思ったほど伸びなかったことから生じたもの〈私的意見を述べれば当然であると〉、然し当実行委員会では赤字補てん対策〈方法省略〉はつつも、継続すべきということで98年も開催の方向で時期・会場について検討しているとの報告がなされた。Ⅱ　97年度「神奈川県演劇フェスティバル」上演実績報告について、各団体からそれぞれ報告がなされた。Ⅲ　本年度神奈川県特別支援事業「ドラマ神奈川フォーラム」について、本機関誌が発行されたときは既に終了しているのでその内容については割愛するも、本事業実施に至るまで実行委員各位の並々ならぬ熱意があったなればこそ開催できたものであり、参加者にはかなりの不満を残したかもしれないし、理事間においても意見の分かれたところもあり決して問題なしとは思っていないが、お互い触発し合いながら〝神奈川の演劇〟について考え、そして活性化せしめてゆくという、大きな目的からであるということ、ただ舞台に立ちたいというだけの諸君にはまだ無理かもしれないが少しでも捉えて貰えばと思っている。Ⅳ　その他として、横須賀地区のプロジェクト夢樹から県演連を脱退するとの申し出があったこと。以上。

『ドラマ神奈川』への感想・要望

連盟加盟劇団から戴いた感想・要望を掲載します。貴重な意見ありがとうございました。今後の編集に活かせるよう、編集委員一同努力していきたいと思いますので、今後ともご意見をお寄せください。

▼各劇団の様子が伺えて楽しい▼各劇団の信念を聞きたい▼各劇団の過去の上演記録を掲載して欲しい▼劇評の責任の所在を明確にするため、劇団名だけでなく署名も入れて欲しい▼連盟の機関誌としての方向が明確になってきたと思う▼劇評を土台にした意見交換ができれば面白いと思う▼公演予定を詳しく▼若々しいエネルギーを感じます。より一層の活性化を▼裏方の特集興味深かった▼演劇論や劇団の目標など読み物がない。企画を考えて欲しい▼連盟劇団以外の芝居のコメントも掲載を▼楽しく交流の輪が広がった

編集後記

2年間お世話になりました。次号からは一読者に戻りドラマ神奈川の発刊を楽しみにしたいと思います。〈葡・太〉

演劇も仕事も体が資本。思わぬアクシデントの為、動きに制限を受けてる私。すぐ来る春に備える球根（丸々と太った）だと思って、愛の光と水を下さい。〈劇団かに座　原田謹家〉

編集委員をやるようになってから、他劇団の芝居を観る機会が増えたのがうれしいです。〈A〉

今年の重大ニュース　初舞台を踏んだこと!!　大舞台の厳しさを味わいました。編集の楽しさも味わえるようになりたいです。〈京浜・清水〉

編集会議を忘れて、太田さん原田さんにご迷惑をおかけしました。〈平丸〉

神奈川県演劇連盟 加盟劇団連絡ノート

京浜協同劇団
211・川崎市幸区古市場2-109
TEL044-511-4951

川崎演劇塾
214・川崎市多摩区寺尾台2-8-12-504 小川方
TEL044-951-9819

劇団葡萄座
220・横浜市西区宮ヶ谷2-2メゾン前橋302山本方
TEL045-311-8208

劇団麦の会
220・横浜市西区伊勢町1-61 高津方
TEL045-241-2828

劇団かに座
220・横浜市西区岡野町1-3-14 田辺方
TEL045-311-5682

横浜小劇場
231・横浜市中区福富町西通り52
横浜演劇研究所内
TEL045-261-4866

劇団蒼生樹
220・横浜市西区伊勢町3-133-824 濱田方
TEL045-242-3584

劇団横浜にゅうくりあ
220・横浜市西区中央1-30-17 泉谷方
TEL045-321-1920

劇団G/9 Project
235・横浜市南区南太田4-38-27
喜楽荘106　佐藤典久方
TEL045-716-5297

劇団河童座
237・横須賀市田浦町4-32 横田方
TEL0468-61-2666

劇団蒼い群
239・横須賀市グリーンハイツ5-2-107 村田方
TEL0468-56-3157

プロジェクト夢樹
239・横須賀市大津町4-43 吉本方
TEL0468-36-7494

劇★派
238・横須賀市上町2-1 ネバーランド内
TEL0468-27-1631

湘南ミュージカル・シアター
253・茅ヶ崎市ひばりが丘1-10 前田方
TEL0467-85-4313

劇団こゆるぎ座
250・小田原市本町2-2-20 梅月食堂内
TEL0465-22-2988